

令和5年度 江戸川区立上一色南小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	○明るくのびのび行動する子供 ○創造性を生かし、自ら学ぼうとする子供 ○仲間を大切にし、力を合わせる子供 ○健康な体と強い意志で、粘り強くやりぬく子供	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○相手の気持ちを考えることができる子供 ○最後まであきらめないでやりぬく子供 ○問題を解決するためにどうしたらよいか考える子供
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>人材育成において若手教員及び産育休代替を中心に校内研修及び授業観察後の個別指導等を年間を通して計画的に行ってきたことで、3人の産育休代替教員が全員採用試験に合格し区内において2人、区外で1人が正規新規採用教員として勤務することとなった。また、国語、算数、理科、社会、英語におけるデジタル教材を全学年に導入し、既習単元における復習を徹底してきたことで、学習習慣の確立に向けた効果的なタブレットの活用が進んだ。 <課題> タブレット端末の活用において、えどダブルールが徹底されていないことでのトラブルがある。SNS学校ルールに加えSNS家庭ルールの周知及び徹底をし適切な活用を進めていく。		

教育委員会重点課題	＜取組項目＞・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国語科を中心に語彙を豊かにするための指導の充実させる。</li> <li>・語彙指導を全学級において週1単位時間実施する。</li> <li>・国語辞典、漢字辞典の活用を充実させる。</li> <li>・全員に既習漢字を正しく書く経験をさせる。</li> <li>・ドリルパークを活用した朝学習を毎週金曜日に行う。</li> <li>・ドリルパークを活用した宿題を毎日設定する。</li> <li>●算数科における基礎・基本を確実に身に付けさせる。</li> <li>・全校で毎週1回授業にかかわる計算問題を毎時間1分間タブレットを活用して行う。</li> <li>・ドリルパークを活用した朝学習を毎週金曜日に行う。</li> <li>・ドリルパークを活用した宿題を毎日設定する。</li> <li>・各学年毎週1回の放課後補習教室を行う。</li> </ul>	【国語科】 ・全国学力調査におけるAB層の割合を50%以上とし、意識調査における「国語の学習は好きか」・「国語の授業はよくわかるか」との設問への肯定的な回答の割合を80%以上とする。 【算数科】 ・全国学力調査におけるAB層の割合を45%以上とし、意識調査における「算数の学習は好きか」・「算数の授業はよくわかるか」との設問への肯定的な回答の割合を80%以上とする。 ・学校関係者評価における「学力向上のための取組の工夫」における肯定的な評価を80%以上とする。	C	C	【国語科】 ・全国学力調査におけるAB層の割合が45.3%となり、昨年度より13.3%の増となったが、50%以上とはなっていない。 ・意識調査による「国語の学習を好き」とした割合は、63.3%、「国語の授業がよくわかる」とした割合は、86.4%であった。CD層の割合を減らし、国語の学習に対する苦手意識を改善する必要がある。 【算数科】 ・全国学力調査におけるAB層の割合が37.6%となり、昨年度より5.3%の増となったが、45%以上とはなっていない。 ・意識調査による「算数の学習を好き」とした割合は、63.6%と昨年度より2.4%増、「算数の授業がよくわかる」とした割合は、72.7%と昨年度より1.5%増となるも、目標には達していない。個に応じた指導をより一層進め、CD層の底上げを行うとともに、AB層においては達成感を味わえるように授業改善を図っていく。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標達成までには、引き続きの改善が必要である。</li> <li>・家庭と連携し学習習慣の確立に力を入れていく必要がある。</li> <li>・50周年記念式典での児童の態度や学習発表会の様子などからも、学校の雰囲気がよくなって折ることを感じる。そのことが学力調査の結果にも反映しているように思える。引き続き丁寧な指導をお願いしたい。</li> <li>・宿題を必ず行う習慣を身に着けることが大事と考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国語科を中心に語彙を豊かにするための指導の充実させるとともに、効果検証を基に改善を図っていく。</li> <li>・語彙指導を全学級において週1単位時間実施する。</li> <li>・国語辞典、漢字辞典の活用を充実させる。</li> <li>・全員に既習漢字を正しく書く経験をさせる。</li> <li>・ドリルパークを活用した朝学習を毎週金曜日に行う。</li> <li>・ドリルパークを活用した宿題を毎日設定する。</li> <li>●教育課題実践推進校として、算数科を中心に個別最適な学びの実践を図っていく。</li> <li>●算数科における基礎・基本を確実に身に付けさせる。</li> <li>・算数科授業の導入において、四則計算にかかわる計算問題を毎時間1分間タブレットを活用して行う。</li> <li>・毎時の学習において自力解決及び適用問題の充実を図る。</li> <li>・ドリルパークを活用した朝学習を毎週金曜日に行う。</li> <li>・ドリルパークを活用した宿題を毎日設定する。</li> <li>・各学年毎週1回の放課後補習教室を行う。</li> </ul>
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館司書と連携した学習を各学年隔週で行い、問題発見、問題の解決、まとめ・表現を伴う学習を実施する。</li> <li>・インターネット版百科事典の活用を図る。</li> <li>・読書科コンクールに全児童の作品を出品する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書やインターネット版百科事典を活用した学習を全学年学期ごとに実施し、学習成果を学習発表会等で発表する。</li> <li>・1学期中に読書感想文の指導を全学年で実施し、夏休み中に全児童が読書感想文に取り組む。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット版百科事典やインターネット検索を普段の授業で適時活用することができている。また、インターネット検索からさらに詳しく調べるために図書の活用にもつなげている。</li> <li>・読書感想文の指導、推薦図書の提示を行い、全児童が読書感想文に取り組むことができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習発表会において、総合的な学習の時間等で取り組んだ調べ学習の成果を発表することができた。第6学年にあっては、SDGsについて図書や電子百科辞典を活用し学習の個別化を進めることができた。</li> <li>・低学年にあっては読み聞かせにより図書に親しむ時間を確保できているが、電子百科事典などの活用については課題が残る。</li> </ul>	
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育科においては系統性を充実した年間指導計画による指導を徹底させ、いろいろな運動を経験させ運動への意欲を向上させる。</li> <li>・全校で毎週1回授業休みに運動遊びを行う。また、年間2回の持久走や学期ごとに長縄週間を設定し運動に親しむ態度を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国体力調査の意識調査における「体育の授業では、進んで学習に参加していますか」及び「運動やスポーツをすることは好きですか」に対する肯定的な回答を90%以上とする。</li> <li>・全国体力調査の意識調査における「1週間の総運動時間」1時間未満の回答を0%にする。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱中症対策として、休み時間の小運動を促進したことや、縦割り班での運動遊びや長縄、学級全体での運動遊びを年間指導に位置づけ行ってきたことで運動が日常化している。このことで、全国体力調査における体育の授業及び運動やスポーツに対する肯定的な回答が96%となった。</li> <li>・全国体力調査における1週間の総運動時間が1時間未満の回答が0%となった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級閉鎖等もなく元気に過ごしていることも、運動習慣によるところが大きいと考える。学校の特色でもある運動遊びや長縄等、よい活動である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動習慣の確立及び体力向上に向けた取り組みを年間を通して行っていく。長縄跳び、短縄跳び、持久走等を年間指導計画に位置づける。</li> </ul>
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザイン視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SC及びSSWとの連携を図り、児童のケアに努めるとともに、エンカレッジルームを適時利用できる体制を構築し、すべての児童が安心して生活できるようにする。</li> <li>・特別な配慮を要する児童や休みがちな児童には、エンカレッジルームの担当を前日の夕会にて調整し、個に応じた適切な支援、指導を行う。</li> <li>・学期に1回都立鹿本学園との共同学習及び学年通信の交換、障がい者または高齢者との交流を体験的な学習として実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校関係者評価における「規範意識の醸成」「いじめの未然防止、早期発見、体罰防止」における肯定的な評価を80%以上とする。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価における「規範意識の醸成」で84.5%、「いじめの防止」で81.8%の肯定的評価となった。</li> <li>・校内の規範意識の指標とする「7つの合言葉」における達成率は、月平均80%以上となり、児童が目標をもち過ぎしている。</li> <li>・いじめの未然防止、早期発見に向け毎週木曜日の生活指導夕会での児童の情報共有や6月のいじめアンケートなどによりいじめの重大事案を予防できている。</li> <li>・服務事故防止研修及び事故事案の周知による啓発により体罰発生を予防できている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会規範の確立にあっては、家庭の責任が大きく、家庭の教育力の向上が必要である。</li> <li>・いじめの防止に向けて引き続き学校全体で取り組んでいってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動全体を通して、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向性を目指す資質・能力の育成を意図的・計画的に図っていく。本校の特色である年間を通した体力向上の取組やクロッキー・やきもの制作による情操教育等の機会をとらえ、互いに尊重する意義やルールやマナーについて指導を行っていく。</li> </ul>
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hupaer-QUの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育の推進のため、校内研修において「江戸川区子どもの権利条例」の理解促進を図る。</li> <li>・学級指導において、日々相手を思いやることの大切さを指導するとともにLGBTQに配慮した指導や「いじめ防止基本方針」に基づいた研修を毎学期行う。</li> <li>・毎週木曜日に生活指導夕会を行い、問題行動の早期発見・早期対応、事故等の未然防止に努める。</li> <li>・hupaer-QUを7月5日に行い、分析結果を児童一人一人の支援に生かすとともに、2学期の個人面談時に保護者と共有し連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校児童に対する対応として、SSWや児童相談所など複数の関係機関と連携する。</li> <li>・SCによる第5学年児童を対象とした全員面接を行うとともに、生活指導夕会で共有された情報を基に教育相談につなげている。</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校児童に対して児童相談所と連携した児童が1名、SSWと連携した児童が1名あった。</li> <li>・SCによる第5学年児童の全員面接を10月から実施する。</li> <li>・生活指導夕会で共有した情報をもとにSCへの面談や関係機関との連携につなげている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭との連携を強化し、指導の充実を図る必要を感じる。習慣化を図るには、一貫したぶれない指導と一過性にならない継続した指導が必要になる。そのためには、学校だけでよいことは意味がない、家庭と連携し、社会に出たときに力となるように家庭においても同様の意識で子供を育てていくことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活規範(7つの合言葉)の指導において、その意義の理解を図り、自発的に実践できる児童の育成を図るとともに、児童の実態及び指導内容を個人面談及び保護者会で共有し、生活規範を確立させていく。</li> </ul>
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動の様子を毎週ホームページに掲載し、保護者及び地域との連携の基盤にする。</li> <li>・学習規律、生活規範を確立するための「7つの合い言葉」における児童の取組状況をホームページに毎月掲載し、保護者及び地域との連携強化を図る。</li> <li>・1学期に2回、2学期に2回の学校公開を実施するとともに、親子参加型の道徳授業地区公開講座を行い教育活動への理解促進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究における取組を年間6回の全研究授業において掲載し、教育活動への理解促進を図る。</li> <li>・「7つの合い言葉」における達成率を全学年で5%向上させる。</li> <li>・学校関係者評価における「家庭・地域との連携を深める取組」に対する肯定的評価を85%以上とする。</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究における取組や普段の学習の様子を週に3回程度ホームページに掲載し、保護者・地域への情報発信をおこなっている。</li> <li>・「7つの合い言葉」による達成率が毎月平均で80%を超えている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や学習の様子をホームページで発信することで、地域住民が学校を知る機会ともなっている。子供たちが頑張っている姿は微笑ましい。</li> <li>・自らの行動を内省することは、意義のあることであり道徳性を養っていくには大事なことである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に1回、年間3回の個人面談を行い、家庭との連携を強化していくとともに、年間4回の学校公開や出前授業、行事等の参観及び参加を広く呼びかけるとともに、ホームページを活用し教育活動の内容を積極的に公開していく。</li> </ul>
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットを活用した学校関係者評価を実施し、多くの御意見をいただけるようにするとともに、教育活動の改善及び充実に向けた方針をまとめ通知する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校関係者評価の回収率を80%以上とする。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価のすべての項目において80%以上の評価を得ることができた。特に昨年度からの課題であった「学力向上のための取組」にあっては、18.9%上昇し91.5%、「ALTを活用した外国語指導」では、27.4%上昇し、90.4%、「タブレットの効果的な活用」では、14.4%上昇し、83.9%といずれも大幅に改善することができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活面で学校全体が落ち着いてきたこともあり、学力にも良い影響が出てきていると感じる。日々の学習を充実させ、子供たちの力を伸ばされることを期待している。</li> <li>・情報を活用したり、ICT機器を活用したりすることは、現在欠かせない力と感じる。学習場面において引き続き効果的に活用をすすめていくことを期待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校関係者評価を2学期末に行い、結果を3学期中に公開する。</li> <li>・学校関係者評価の結果を次年度の教育計画に反映し教育活動の改善・充実を図っていく。</li> </ul>
特色ある教育の展開	<1人1台端末を効果的に活用した学習習慣の確立>  <体育的行事と体力向上を目指した運動の日常化>  <陶芸・クロッキーに親しみ感性を育む>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週金曜日の朝学習、毎日の家庭学習、日々の授業においてタブレットを活用し学習習慣を確立させる。</li> <li>・毎週1回の運動遊び、学期に1回ずつの長縄週間、年間2回の持久走を行うとともに、業間休み・昼休みの外遊びの日常化を図る。</li> <li>・年間を通した陶芸の授業及びやきもの展、年間11回のクローキータム及び年間2回のクロッキー展を行い情操教育の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習において、前学年の復習を9月までに終わらせたことで、10月からは当該学年の復習を行い3月までに終わらせる。</li> <li>・学校関係者評価における「たくましい子を育てるための取組」に対する肯定的評価を90%以上とする。</li> <li>・学校関係者評価における「豊かな感性を育むための活動」に対する肯定的評価を95%以上とする。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習、授業中、宿題などでドリルパークによる復習を徹底してきたことで、タブレット学習の実施率が平均で1日2回程度となり区内で最高となった。</li> <li>・毎週1回の運動遊び、学期に1回ずつの長縄週間、前期の持久走を行うことができた。また、熱中症予防対策を図りつつ業間休み・昼休みの外遊びの日常化が図れている。</li> <li>・学校関係者評価を11月中下中に実施する。</li> <li>・クロッキー集会、前期クロッキー展を計画通りに実施することができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちが正しく道具を使いこなし、正しく学んでいくことが大事である。ICT機器の活用については、正しいルールやマナーについてももしっかり教えていくことが必要である。</li> <li>・広い校庭を活用し、のびのびと運動に親しめる活動を引き続きお願いしたい。</li> <li>・毎年のクロッキー展、やきもの展は本校の特色として根付いており、意義のあることだと考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習アプリを効果的に活用し、学習習慣の確立を図る。</li> <li>・ICT機器を適時活用し、指導の個別化及び学習の個性化に生かす。</li> <li>・短縄を活用した運動遊びを年間30回程度実施するとともに、毎学期、長縄及び持久走に取り組む運動習慣を実施する。</li> <li>・クロッキー及びやきもの制作に年間を通して取り組むとともに、2月に児童の作品を展覧会で家庭・地域に公開する。</li> </ul>